

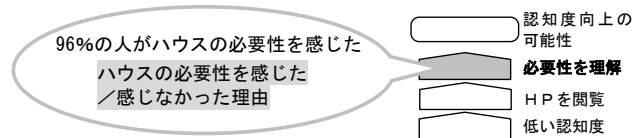
ハウスの必要性を感じた／感じなかった理由

ハウスの必要性を感じた／感じなかった理由を、記述していただきました。

その結果、自宅から通いきれない病院で子どもが治療を受けるとき、ハウスが必要になる理由を、広く一般の方に理解して頂ける可能性が高いことが分かりました。

また、ハウスの活動への理解者の裾野を広げるために、より分かりやすく、自宅を離れて闘病する子どもと家族の実情を伝えていくことの重要性を再確認できました。

- ①必要性を感じた理由のうち、多く挙がっていたのは、「経済的負担を軽減するため」「付添家族の心理的負担を軽減するため」の2点でした。
- ②今までハウスを知らなかった人も、ホームページを見て、同じような理由を記載する人が多くいました。
- ③一方で、今回の調査ではハウスの必要性に疑問を示した人は4%でした。全体の割合からすると少数ですが、その回答理由をみてみると、付添家族にとってハウスが必要となる実情をイメージできていないために、必要性に疑問を感じたと捉えることができます。



●ハウスについて必要性を感じた人の回答理由

◆経済的負担を軽減するため

- ・可能な限りの医療を受けさせてあげたい。その為必要な費用などへの不安が少しでも減らせるのなら、治療に専念できると思う。(女性/36歳/山形)
- ・子どもの命にかかわることは何よりも優先されます。しかし親が負担できる費用にも限界がありますその負担をいくらかでも軽減できる施設はとても必要です(男性/43歳/山形)

◆付添家族の心理的負担を軽減するため

- ・家族が経済的な負担に悩むことなくずっと傍に付き添っていられば、子どもの治療成果にも大きな変化が出ると思う。両親の精神状態はどう考えても子どもの体調に露骨に反応するものです。(女性/39歳/茨城)
- ・子どもにとって親は最後のよりどころ。その支えが無くしては治療がうまくいかないこともあるから。(男性/47歳/千葉)

●ハウスについて必要性を感じなかった人の回答理由

- ・まだよく解らない所もあるが、家族全員が行くことは難しいし、一緒に行けないなら、残っている家族の精神的な負担は大きいと思う(女性/52/愛知)
- ・両親の仕事が忙しく遠方へは行けない。よってあまり必要ではないという結論になる。(男性/48/新潟)